

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

遊駿 PLUS

2024年12月

vol. 56

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先: E-Mail: yushun.plus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

Photo by miwa



KR NEWS



園田で連覇！ハクサンアマゾネス

一〇月三〇日、園田競馬場で行われた兵庫クイーンカップ。ここに昨年優勝したハクサンアマゾネスが出走し、連覇を狙った。

ここ二戦は三、二着と重賞最多勝記録を前に足踏みをしているが、この舞台では単勝一・三倍の圧倒的一番人気に推された。

ゲートが開くとハクサンアマゾネスは出が悪く、二番人気のスマイルミーシャも立ち上がるようなスタートで一騎打ちの様相だった二頭が後方からと思わぬ展開にどよめく場内。

ハクサンアマゾネスは最後方からレースを進めるが一週目の直線でポジションを上げていくと二週目向こう正面ではいつの間にか前から三番手まで上がり、向こう正面出口で早くも先頭で後続を引き離しにかかる必勝パターン。

そこに兵庫の女王スマイルミーシャも追いかけて最後の直線では一騎打ちに。だが、差はなかなか縮まらず、二馬身半差が付いたままでゴール。兵庫クイーンカップ連覇と同時に重賞二十五勝目、地方競馬重賞最多勝記録に並んだ。

これでハクサンアマゾネスは園田で四戦四勝。現役ラストイヤーでも

好相性を見せつけ、最後の女優の走りを園田のファンに見せつけた。

夫人議員！ウマ娘コラボ

十月十二日、十三日に全国最多四回目となるウマ娘コラボ「ウマ娘ブリタイダービー×金沢けいばコラボイベント」が行われた。駐車場には県外ナンバーの車も多く見られ、七八三六人の来場者は四回のコラボイベントで最多人数だった。



ウマ娘の声優によるトークショーではステーション周辺は黒山の人だかり。ポップアップストアに出張コラボカフェ、商品購入でポストカードがもらえる能登物産展では大行列。事業連携レースでは拍手や歓声が沸きあがり競馬のレースと言うよりもライブ会場と言った雰囲気。当日八鞍騎乗の柴田騎手も「テンションが上がった」と言うほどに大いに盛り上がった。

一方で売上はこの人出の割には低調ではとSNSで話題になった。しかし、やり方次第では多くの集客ができるかわかたはず。ここからどう売上に繋げていくか。金沢競馬の



金沢競馬の騎手にインタビューを行い、ファンへの一言を求めると異口同音で「もっと馬券を買って下さい！」と言う。

実際金沢競馬の売上は全国的にも低く、昨年度のデータで開催十五場中十三位。後ろの二場は水沢と姫路だが、そもそも開催日が少なく、実質金沢が最下位と言えそう。

また今年のデータでも、同じような開催日数の名古屋と比較して、来場者数は金沢の方が倍以上多いのに売上げは三分の二と言う状況。一日の売上が少ない事でSNSの話題になる事も度々あり、売りに関してはネガティブな話が続く。

今年行われたウマ娘コラボでも来場者数の割には売上げが少ないと話題になり、様々な意見が飛び交う事になった。

仮に金沢競馬場が県営の観光施設であるなら、大勢の人を呼び込むことで県内の観光業や飲食・小売業者が潤えばそれでもいいと思う。しかし、競馬場は観光施設ではないはず。競馬場本体が売上を上げて賞金、

希望と課題が見つかったコラボのようには思えた。とは言え、楽しいコラボだった事も間違い無く、五度目のコラボ実施にも期待したい。

競走環境の整備をしてレベルを上げ、その先に競走馬の受け皿として、ひいては競馬場内の雇用を守る。

その為にも、大前提として稼がなければならぬ。売上が前年よりも上がりましたが、と言っても他場は遥か上で上げている事を忘れてはならない。

これまでのイベント等で人を集める事への可能性は十分にわかった。そろそろ馬券の売上をもっと上げる方策を考える段階に来ているのではないか。

今年度、薄暮開催に加えて夏にナイト開催を行うなど色々試しているのだから。

他場が馬券を売っていない朝に開催を行うとか、他場では少ない中長距離戦を増やすとか、馬券を買いたくなるような方策や番組作りを攻めてほしい。

売上が低いと言う意見に肩身が狭い思いをする金沢ファンは多い。空雑巾絞のような状況で開催していたあの頃にはもう戻りたくはない。金沢競馬が好きだから、これからも残って欲しい。だからこそ、もっと売上の上がるような努力も見せてほしいと思っている。



柴田騎手インタビュー

今年の金沢競馬を振り返る時に絶対に外せない一頭がナミダノキス。中央未勝利から金沢に移籍し、今年の四月に再デビューを果たすと三連勝で石川優駿を、そのまま無敗でサラブレッド大賞典も制して二冠馬となった。

そんな新ヒーローの登場をエスコートしたのは柴田勇真騎手。四年振りの重賞制覇で十月の時点で昨年の勝ち星を上回る活躍ぶり。



ナミダノキスと駆け抜けた重賞、そして今年について聞いてみた。

「重賞二勝は」馬が強いだけ、どう考えても」

笑いながら控えめにそう言う柴田騎手だが、今までと変えた部分もあると言う。

「道中の姿勢とか意識して前とは変えて乗っている。姿勢を馬に負担をかけないような、抵抗を減らして」

その変化に応えたのがナミダノキス。乗りやすい馬と言う彼は四月の金沢初戦の一五〇〇mの平場を二秒差で大差勝ちを見せた。

「一戦目からこれは物が違うな、と言う感覚はあった。初戦からダービーを意識して。距離は長い方がよさそうだし、ダービーいいんじゃないかなと話していた」

石川優駿トライアルを制して二番人気で迎えた石川優駿。

後方でレースを進めるも出る所がなく、向こう正面でなんとか外に出して仕掛けられたと言う。

その間に一番人気吉原騎手のリケアマロンが早め先頭に立つ。

「直線向くまで届かないんじゃないかなって言う位の距離があって。射程圏外と言う感じがあった」

そう思うほどの差を付けられていた。しかし、最後の直線でひっくり返す。

「追い出してから呼吸が合って。そこからあの追い込みの脚はすごかった。普通では交わせる距離感ではなかった。凄い足を使ってくれて



Photo by miwa

短い直線で先行有利の金沢で直線一気。四分の三馬身交わしてゴール。 「何とか馬が頑張ってくれました」

しみじみと語る柴田騎手。その後、夏の休養を経てサラブレッド大賞典。

「休養を挟んで成長を感じた」

そんな手応えを感じた柴田騎手とナミダノキス。圧倒的一番人気で迎えた一戦は石川優駿と違い、道中はスムーズに進められ、向こう正面で前に進出。

「長い脚は使える馬とわかっていたので。状態面がやや万全でなかったので早めに仕掛けよう。思っていたよりも反応が良くて突き抜けた」

直線では二番人気ロックシティボーイを八馬身ちぎり圧勝。三歳の



Photo by miwa

トップホースとなった。

さらに次戦、初の古馬との対戦となったA2戦で三馬身つけての完勝。連勝を六に伸ばした。

今後への期待は膨らむばかり。どのような路線を歩むのか。

「距離が短いと忙しすぎてちょっと合わない感じがする」

そうなると古馬の四大重賞路線。百万石賞、白山大賞典。あるいは他場の交流競走か。

「輸送が合わないかもしれないけど。距離は一七〇〇mから欲しいけど……それでも足りないかな」

古馬の王道路線を歩み金沢のトップホースを目指す、その前に今年の中日杯。そこにはラストランの金沢最強馬ハクサンアマゾネスが待つ。

「狙っていく。戦えない馬ではない」と言い切り世代交代を狙う。

「ナミダノキスの様な金沢を代表するような馬に乗せてもらっているので、僕自身ももっと頑張ってるって行きたい」

ナミダノキスと駆け抜けた今年を振り返ってさらに気合を入れていく柴田騎手。

「お客さんに楽しんでもらえるような迫力のあるレースをみんなで作りたい。上げて、金沢競馬を盛り上げたい」

これまでトップに君臨し続けたハクサンアマゾネスが中日杯で引退となり、絶対王者がいなくなる二〇二五年。そこに新たに君臨する最右翼の存在であるナミダノキスと柴田騎手。来年からの金沢競馬を盛り上げ、全国へとその名を轟かせるように期待していきたい。

ちなみに。カラオケでサザンオールスターズの「涙のキス」は歌うのかという質問には。

「聞くけども歌わないなあ。世代が違っからかな」

笑いながらそう答えた。